

柴田学園大学短期大学部
2024 年度(令和 6 年度) 自己点検・評価報告書

No	部 署 名	ページ
1	運営委員会	2
2	人事委員会	3
3	入試委員会	4
4	IR 室	5
5	自己点検・評価委員会	6
6	生活科	7
7	保育科	8
8	地域文化センター	9
9	学務委員会	10
10	学生委員会(学生支援委員会)	11
11	事務室	12
12	学事課	13
13	保健室	14
14	図書館(図書館運営委員会)	15
15	広報委員会	16
16	FD 委員会	17
17	紀要年報編集委員会	18
18	研究倫理委員会	19
19	ハラスメント対策委員会	20
20	情報システム委員会	21
21	SD 委員会	222
22	栄養士課程委員会	23
23	医療マネジメント課程委員会	24
24	ビジネスマネジメント課程委員会	25
25	保育士課程委員会	26
26	幼稚園教諭課程委員会	27
27	中長期経営改善委員会	28

部署名	運営委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	・教職員が情報共有をし、各科各室が学生の支援をし、教育環境改善にあたる。 ・各科の教育力向上と魅力づくりと発信について。 ・学生の獲得に繋がることについて、各科で考えたものを運営委員会メンバーで、更にもんで、実行していけるような具体的な話し合いができるようにする。
目 標	・理事会に直結した各戦略室が設けられたことから、短大の委員会と紐づけをし、よりスピーディーに戦略の実行に繋がるようにする。 ・運営委員会での内容を、各科各室で情報共有をはかり、短大の運営が円滑にできるようにする。 ・教育環境改善にむけて充実した検討をし、教員の教育研究力向上と、学生の学力向上、就職率 100%を目指す。
取組内容	・学生の学力向上と、就職率 100%にむけて、教育環境の見直し。 ・就職先アンケート・卒業時アンケートなどから、シラバスの見直し。 ・理事長裁量経費新設され、科研費獲得にむけて支援があった。 ・学長裁量経費が新設され教職員の研究発表や学生と教育活動の支援があった。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
・現在の資格の内容とシラバスの内容などを見直した。 ・GPA1.5 以下の学生についての指導について精査した。 ・理事長裁量経費に 3 名の教員が申請し、採用された。 ・学長裁量経費 100 万を教員の学会での研究発表や、予算化されていなかった学生の教育活動に充てることができた。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
・シラバスの見直しがそれぞれなされた。 ・GPA1.5 以下の学生には実習に行くにあたり、更なる指導や試験を課し実習を行えた。 ・学生の問題について、学生の今後の育ちを期待した指導をしていくこととした。 ・理事長裁量経費に採用された 3 名の教員の科研費採択はなされなかったが、他の 2 名の科研費の採択がなされた。	

部署名	人事委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	・免許資格や認可基準に関わる人材の確保を図る。 ・業績評価の見直しから、教員一人一人の努力が認められるようにする。 ・インセンティブを上位3名にする。 ・業務の効率化について、見直しをはかり、恒常的な人員不足を補う。
目 標	・早めの次年度の教職員の確認から、確保にむけて動き、今年度中には来年度の人員の確保ができるようにする。 ・教員が、自身の頑張りを認められた実感をもち、教育力・研究力・社会貢献力・管理運営力を発揮できる環境づくりをする。
取組内容	・面談などを通して、次年度の意向を確かめた。 ・不足人員について、理事会に補充計画書を提出し、公募をかけた。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
・理事会への補充計画と公募が短期間で、面接も採用結果の連絡も年度内のぎりぎりになった。 ・業績評価のさまざまな算出の仕方を、試行したが、結果、同じような順位になった。インセンティブについて、上位3名の教員には1万円のインセンティブを研究費として使用できるようにした。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
・年内には次年度の体制を確定したいことから、年内の面談で意向を確認するようにしたい。 ・学生指導に熱心になるほど、自身の研究時間の確保が困難になる状況についての改善の方法はすぐには解決できないが、就職支援等の面談を科の教員で分担し、チャットなどの活用から改善の検討を続けたい。	

部署名	入試委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	・入試方法や入試時期の、受験生にとっての最適化の検討をする。 ・さまざまな入試の試験内容について精査する。 ・入試に対する不安が無いような対策についても併せて検討する。 ・他校の入試情報から、学生確保に繋がる入試方法について検討する。
目 標	・両科の入試方法について、科内で熟考した結果を委員会でも検討して今年度の最適な入試方法を決定する。 ・高校生のニーズに合った入試方法について、高校の先生方からも情報を得て参考にしていく。 ・高校生の動向や他校の入試時期などから、最適な時期を決定する。
取組内容	・生活科の総合型プレゼンの指導について、高校の教員から大変だという声を取り入れて、オープンキャンパスでの対策を行った。保育科は総合型選抜プレゼンの絵本の読み聞かせを行う事が決定し、対策講座を実施した。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
・総合型の受験者が激減したことから、受験生にとってハードルを下げた入試内容や、高校教員が指導にたいへんだとならないような内容を検討していく必要について検討した。 ・技専校について、これまでは生活科のみの受け入れをしていたが、弘前地区での厚生学院が募集停止をしたことから、保育科での受け入れも決定し、申請することとした。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
・生活科・保育科の総合型入試方法について、他校の内容から再度検討を行う。 ・技専校受け入れが生活科 3 名、保育科 5 名となった。技専校希望者増加に向けた方策も検討したい。	

部署名	IR 室
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	・ 学生確保についての情報収集 ・ 学内に必要な学びや研修の検討 ・ 情報を基にした、教員への研究助成や活動助成・補助金への申請の斡旋 ・ 業務の効率化や経費削減についての検討
目 標	・ 情報収集による効果的な学生確保について ・ 学生の学力向上、教員の教育力・研究力向上への情報収集と提供 ・ 教職員の業務の円滑化と労力と経費削減についての取組の具体化
取組内容	・ IR 室の開催は行わず、各業務に関連する委員会の開催へと置き換えた。 ・ 学生募集に関しては。オープンキャンパス実行委員会を設立して実施。 ・ 学生募集の情報収集と実施は、学園の学生募集戦略本部での検討事項と決定に従って、高校訪問や入試、オープンキャンパス、学校案内作成などが行われた。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
オープンキャンパスを 4 回行った。回数と内容の最適化について、次年度に向けて話し合いが必要とした。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
3 月オープンキャンパスを実施し、4 月にも実施したが、学生の確保や、教職員も入試対応や次年度シラバスの準備等があり十分な準備や指導ができなかった。在学生が学校に慣れて学生指導ができる状況の 5 月始まりが最適と考えた。	

部署名	自己点検・評価委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	・令和5年度事業報告書及び令和6年度事業計画書作成と実行 ・委員会年度ごとの見直し実施 ・自己点検。評価報告書の提出の様式の見直しと各委員会からの提出 ・業績評価の実施・インセンティブの見直し
目 標	・実施された事業・学生や教員の活動の評価と可視化となる事業報告書をもれなく記載し、写真等でよく伝わるような内容にする。 ・事業計画書は、現在の事業・活動の見直しに留まらず、新たな取組を行える計画とする。 ・教員業績評価の適正化
取組内容	・令和5年度事業報告書の完成 ・令和6年度事業計画書の完成と実施 ・教員業績評価方法の見直し
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
・令和5年度事業報告書は、生活科・保育科ともに、学生と取り組んだ内容となった。 ・令和6年度事業計画書について、新たな事業や活動の検討をした。 ・教員業績評価は、社会貢献項目の適正な評価について課題となった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
・次年度以降もの事業報告書を意識して、事業や教育活動の場面で写真を心がけてとり、記録を残していくことを行うこととしたい。 ・教員業績評価に加え、職員の業績評価の方法についても検討したい。残業が多い部署については、削減できる業務や効率化がはかれることがないか見直しを行いたい。	

部署名	生活科
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 学生面談を生活科の全教員で分担する 2. ブランドマネージャー3級を取得可能な資格に加える 3. 生活科で取得可能な免許・資格について、各媒体への記載状況の整理
目 標	1. クラス担任の業務軽減のため、学生面談を生活科の教員全員で分担する 2. 学生がブランドに関する知識を深めることを目的として、ブランドマネージャー認定協会に加盟する 3. 生活科で取得できる免許・資格の各媒体(本学ホームページ, 学校案内, 募集要項)への記載状況が統一されていなかったため、各免許・資格の取得に必要な条件等を整理し情報共有する
取組内容	1. 各教員が10名程度(2学年分)の学生面談を担当した 2. ビジネスマネジメント課程の授業を多数担当されている小磯先生が、ブランドマネージャー認定協会との窓口の他、受験対策として事前の特別講義の講師も担当した 3. 生活科で取得可能な免許・資格の各媒体への記載状況の整理し、学務委員会・運営委員会で情報共有した
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. クラス担任の業務の軽減化に加え、クラス担任以外の教員は自分の担当学生の現状について理解を深める効果があった。 2. 受験者は2名、合格者は2名であった。 3. 生活科で取得可能な免許・資格の各媒体(ホームページ, 学校案内, 募集要項)の記載状況が変更された	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 問題は報告されていないため、次年度も継続する予定 2. 受験者、資格取得者が少数であったこと他、協会との窓口、特別講座を担当していた小磯先生が次年度で定年退職のため、次年度以降の担当者が未定であることが懸念される 3. 生活科で取得可能な免許・資格に必要な条件について、受験生等、学外の方が誤解をすることを防ぐために、今後も継続する予定	

部署名	保育科
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 本学初の認定絵本土の輩出。 2. 絵本コンクールへの出展。 3. 教員同士の授業見学と授業見学報告書等によるフィードバック。 4. 保育科カリキュラムの見直し。 5. ピアノ教育の強化。
目 標	1. 本学初の認定絵本土を輩出する。 2. 保育科の絵本学を履修した学生が制作した絵本をコンクールに出展する。 3. 教員同士の授業見学と授業見学報告書等によるフィードバックをおこなう。 4. 保育科カリキュラムの見直しをおこなう。 5. 保育科のピアノ教育を強化する。
取組内容	1. 保育科で「絵本学」という授業を開講し、履修者に認定絵本土取得のための教育を実践する。 2. 「絵本学」の授業内で製作した絵本のうち、特に優れていると思われる絵本を、絵本コンクールに応募した。 3. 保育科教員がお互いの授業見学をおこない、授業見学報告書を作成し、相互にフィードバックをおこなった。 4. 保育科の全てのカリキュラムの内容について吟味をおこなった。 5. 保育科学生のピアノ教育を強化するために、各教員が自身の教育力をより効果的に発揮できるよう、検討した。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 保育科2年生の18名が認定絵本土として、国立青少年教育振興機構から認定証が交付され、本学初となる認定絵本土が誕生した。 2. 絵本学の授業において学生が作成した絵本の中で、特に優れていると思われる絵本を、絵本コンクールに出展したが、プロの絵本作家の出展もあったことから、入賞には至らなかった。 3. 一部の学生の授業態度を改善するため、教員がお互いの授業を見学し、良かった点や改善した方が良い点についてフィードバックをおこなった。 4. 「子どものための総合演習」は、これまで半期の期間で開講していたが、教育効果等をより高めるために通年科目とした(令和7年度入学生より)。 5. 保育科学生のピアノ教育を強化するために、各教員が自身の教育力をより効果的に発揮できるよう、役割分担を明確にした。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. より多くの学生が認定絵本土を目指すよう、引き続き、絵本の魅力を伝えていく。 2. 今後は、学生だけを対象とした絵本コンクールに出展した方がよいかもしれない。 3. 次年度は、その効果を測定することが課題となる。 4. 保育科の全カリキュラムについて、本学教員全員で吟味を継続する。 5. 次年度は、その効果を測定することが課題となる。	

部署名	地域文化センター
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 公開講座の企画・広報・運営 2. 出張授業の企画・広報・運営 3. 出前講座の企画・広報・運営
目 標	1. 適する助成金を申請・獲得し、公開講座を企画・広報・運営する。 2. 公開講座・出張授業・出前講座において、本学教員の魅力ある講座を科のバランスよく開講する。 3. 依頼のあった講座・授業については、できるだけ対応できるようにする。
取組内容	1. 公開講座は、本学の校舎を利用し、本学の教員の知的財産を一般市民に広く貢献する事業である。 2. 出前講座は、依頼のあった場所に本学教員が出向き、対象者に合った内容を提供する。 3. 出張授業は、中学生・高校生・教員を対象とし、依頼のあった学校に出向き、大学の授業について講義する。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 公開講座は、青森学術振興財団助成金を取得し、前期 9 講座、後期 6 講座計 15 講座を計画し、13 講座を実施した。受講者は延べ 124 名であった。そのうち高校生は 25 名であった。 2. 出前講座は、4 講座の依頼があり、公民館、集会所、文化センター等に出向いた。約 90 名の参加者があった。 3. 出張授業は、3 高等学校より 5 講座の依頼があった。参加人数はおおよそ 140 名であった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 公開講座については、本学教員より講座を提供され、募集しても参加者の集まらない講座があった。より、地域の方々の要望に応えられるよう、アンケートで希望する講座を聞き取り、教職員で共有し、来年度の講座について検討する。 2. 出前講座及び出張授業については、要望があった場合に対応するため、依頼があった場合は、できる限り対応する。 3. 公開講座・出張授業・出前授業の宣伝・広報について、郵便料金の値上げに伴い、郵送個所の検討を行う。また、広報ひろさきの発行も月 1 回となったことも受け、広報の仕方を検討する。	

部署名	学務委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 一部の学生の授業態度を改善。 2. 「学校案内 (キャンパスガイド)」 「学生募集要項」 「ホームページ」において記載されている各科の「免許・資格」に関する整合性の確認。 3. 学外実習のみ履修する科目等履修生が入学した場合の実習要件の認定に関する検討。 4. 再試験の採点の上限の見直し。
目 標	1. 学生の授業態度 (私語やスマートフォン使用の制限など) を改善し、学生・教員の双方にとって、より快適な授業環境を維持する。 2. 「学校案内 (キャンパスガイド)」 「学生募集要項」 「ホームページ」において記載されている各科の「免許・資格」を一致させる。 3. 学外実習のみ履修する科目等履修生が入学した場合の実習要件について整備をおこなう。 4. 学務委員会の中で、再試験の採点の上限にする審議をおこなう。
取組内容	1. ① Viva Engage を通じて全学生を対象に注意喚起をおこなった。② 一部の授業において教員間の授業見学とフィードバックをおこなった。③ 一部の非常勤講師に対して、困っていることがないか等の聞き取りや相談等を実施した。 2. 学事課・各科が連携して、各科の「免許・資格」の確認をおこなった。 3. 保育科内で、科目等履修生の実習要件の内規を新たに作成することとした。 4. 再試験の採点の上限は、現状で「良」となっているが「可」にするべきか審議をおこなった。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 上記の3つの取り組みにより、目標は達成された。 2. 学校案内 (キャンパスガイド)」 「学生募集要項」 「ホームページ」において記載されている各科の「免許・資格」の一致がなされた。 3. 保育科内で、科目等履修生の実習要件の内規を新たに作成し、次年度から導入することとなった。 4. 学務委員会で審議したが、結論は出ず、継続審議となった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 毎年、新しい学生が入学してくるので、入学直後の早い段階で、授業を受ける態度について、指導を継続していく。 2. 各科で新たに取得可能となった資格や、逆に試験対策等を行わない資格については、教員・学事課等が密に連携を取り、「学校案内 (キャンパスガイド)」 「学生募集要項」 「ホームページ」において、正確な情報を記載する。 3. 本学を卒業したものの、GPA が 1.5 に満たない学生を科目等履修生として受け入れ、実際に実習指導をおこなう。 4. 今年度に引き続き、再試験の採点の上限を見直す。	

部署名	学生委員会（学生支援委員会）
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 学生懲戒規定の見直し 2. 1.2 年就職交歓会、1 年就職ガイダンスの運営 3. 卒業式ガイダンスの運営
目 標	1. 停学期間の見直しを行い、処分基準を再検討する。 2. 学生委員会事業として運営する。 3. 学生委員会事業として運営する。
取組内容	1. 有期停学期間が最短で「1 か月」と設定されているが、停学期間が解除された時点で定期試験受験資格が失われるため、本件を検討する。併せて、別表 1 懲戒処分の基準の見直しを行う。 2. 学生課が主体となって行ってきた事業を、学生委員会事業として運営する。 3. 学生課が主体となって行ってきた事業を、学生委員会事業として運営する。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 停学期間終了後からも学業に復帰できるように、第 4 条 停学の区分の有機停学期間を「1 か月以上 6 か月未満」から「6 か月未満」に学則変更を行った。 別表 1 懲戒処分の基準は「飲酒」「喫煙」の事例項目を新設した。 2. 各科と連携を図り、1 年生の就職活動に向けた意識づけができた。 3. 学生委員会の教職員だけでは、運営することが難しい係（校歌指導、ピアノ伴奏）は担当教員に依頼し、運営することができた。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 別表 1 懲戒処分の基準の見直しを行ったが、懲戒の種類（退学・停学・訓告）を決める際の判断基準を、来年度設けるための検討を行う。 2. 実施内容や時期などを再検討する。 3. 学生委員会の教職員だけでは、運営できない仕事もあるので、各科課と連携を図り進めていく。 学事課職員の仕事分担が多くなってしまったため、1 年クラス担任に分担するなど見直す。 学事課職員の仕事分担が多くなってしまったため、1 年クラス担任に分担するなど見直す。	

部署名	事務室
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	(1) 学生用「履歴書の販売廃止」 (2) 授業料減免業務 (3) 振替休日の取得 (4) インターネットバンキングの導入
目 標	(1) 学生負担の軽減及び窓口業務の簡素化・効率化を図る (2) 授業料減免に係る業務を適切に遂行する (3) ジョブカン導入による振替休日取得の適正化を図る (4) 支払業務の簡素化・効率化を図る
取組内容	(1) 学生が就職活動で使用する履歴書の販売を廃止し、各科教員室に置き必要な学生には無料で配付することとした。 (2) 授業料減免の申請や区分決定の通知・授業料納付までの流れ等を確認し業務を行った。 (3) ジョブカン導入に伴い、振替休日の取得を「半日」又は「1日」とするとともに、勤務時間も半日又は1日とすることとした。 (4) 自動引き落としを積極的に推進するため、「インターネットバンキング」を導入した。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
(1) 学生用「履歴書」を無料とすることで学生負担の軽減が図られるとともに、窓口で取り扱う現金が少なくなり業務の簡素化・効率化が図られた。 (2) 授業料減免業務については、前期は滞りなく進んだが、休退学による学費徴収業務に手違いがあり必要な対応を行った。また、半年毎の学業判定でも学生への結果通知の発行漏れがあったなど、業務改善が必要である。 (3) 振替休日取得の適正化を図ったことで、就業規則に則った勤務・振替休日の取得となった。 (4) 「インターネットバンキング」を導入したことで、支払業務の簡素化・効率化が図られた。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
(1) 窓口での現金業務が極力少なくなるよう、業務の簡素化・効率化について継続検討する。 (2) 授業料減免業務に係るチェック体制など業務改善を図る。 (3) ジョブカン導入による業務の簡素化・効率化を推進する。 (4) インターネットバンキングによる支払業務を更に推進する。	

部署名	学事課
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1 入試日程案の作成 2 学生募集要項の作成 3 学生委員会と共に各行事の実施 4 入学式・卒業式の実施 5 学園創立 100 周年記念式典 6 保健室業務
目 標	1 入試日程案・指定校枠案を早期に作成し、入試委員会に諮る。 2 学生募集要項を作成し、各科や関係部署に確認をしてもらう。 3 学生委員会に負担を掛けないようにする。 4 万全の企画、円滑な運営を心掛ける。 5 100 周年記念式典を成功させる。 6 次年度の健康診断等の計画、連絡を行う。
取組内容	1 昨年度ベースで入試日程案や指定校の枠の案を作成し、入試委員会に諮り、募集要項や募集活動の準備へと繋げる。 2 入試委員会で決定した 1 について、確実に学生募集要項に反映させ、3 ポリや資格等、各科に確認依頼をする。 3 歓迎交換会や文化祭、スポレク等、学生委員会や学友会との連携を図り、学生委員会の負担を減らしていく。 4 特に卒業式は当番校であるため、大学とも連携を図りつつ企画する。 5 各業者の手配、人員配置、市民会館と打合せ、実施要項、司会原稿、配置図等を入念に行う。 6 保健室担当者がパート職員であるため、一定数以上の学生の対応をしなければならない。軽度のものであれが問題ないが、専門知識が必要な場合は病院の受診を促す。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
学事課となり、それまで保健室については学生課に付随していたものであったが、学事課のものとなったが、保健室業務にまで手が回らないのが現状。保健室担当職員に任せていたが、4 時間のパート職員であるため本来は任せてもらえず、反省している。 100 周年記念式典は「学園として」の式典であり、本部が担当すべきことである、しかし本部は手伝いという認識であった。不慣れではあったが、様々な方にご協力頂き、なんとか終えることができたが、周年関係の式典は是非「本部」として取り扱って頂きたい。 その他すべて、ほぼ反省だけである。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
学事課 1 年目ということもあり、ご迷惑をお掛けすることも多かったが、今年度よりも確実にブラッシュアップし、学生に不利益が内容努めていきたい。 全ての動きが、今年度以上になるよう、課員一丸となり努めていきたい。	

部署名	保健室（学事課）
1. 今年度の重点事項	
項目 （箇条書き）	1 健康診断の実施 2 医薬品の管理 3 学生の心身の管理 4 健康診断書の発行
目 標	1 円滑な健康診断の実施 2 安全な医薬品の管理 3 学生への適切なアドバイス 4 速やかな診断書の発行
取組内容	1 内科医や、予防医学協会、X線撮影等の手配及び、身体測定の実施 2 期限切れの医薬品の廃棄、補充を行う 3 相談のために来室した学生や内科的・外科的理由による来室した学生に対する適切なアドバイス、指導を行う。 4 申込みされた場合は、速やかに健康診断書を発行する。
2. 自己点検・評価（取組状況、及び、目標の達成度）	
概ね、滞ることなく保健室業務については遂行できている。内科的・外科的な理由での来室よりも、相談等での来室が多く、一人に費やす時間が長くなりがちであった。 また、一定学生の憩いの場的な使用状況にもなっていたため、次年度以降はそうならないように気を付けたい。	
3. 次年度の取り組み予定（今年度の自己点検・評価を踏まえた内容）	
今年度以上に円滑な運営を心掛ける。 両科長やクラス担任と連携を取りつつ、学生の生活をフォローしていく。	

部署名	図書館(図書館運営委員会)
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 臨時時間の設定 2. 購入資料の選書 3. 委員会業務の効率化 4. 私立短期大学図書館協議会東北地区協議会理事館業務（令和6・7年度）
目 標	1. 開館中の閲覧室の施錠を極力避けるよう配慮する。 2. 各教科・各課程に向けて学生が利用しやすい書籍の選書を心掛ける。 3. 委員会の承認を必要とする業務は Teams を用いて会議時間の短縮化を図る。 4. 令和6年度の取り組みとして本学校舎における研修会および情報交換会を円滑に進める。
取組内容	1. 開館時間を臨時時間の8:30～17:00とし、やむを得ず図書館員が席を外す際は返却ボックスの設置、貼り紙や Engage での告知を行った。 2. 認定絵本士に向けた絵本、シラバス掲載の参考図書、ビジネス課程の書籍の補充を中心に購入した。 3. 資料の購入・除籍および私立短期大学図書館協議会理事館業務に関して、委員の意見や可否のとりまとめを迅速に行った。 4. 研修会講師ならびに東北地区加盟館の図書館員が参集するにあたり、当日の役割を分担して進めた。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
項目2～4については概ね目標を達成することができた。 項目1について、図書閲覧室の開館時間内は図書館員が常時在室できることおよび定時までの開館が望ましい。利用者の利便性と図書館資料の管理も踏まえ、職員が常駐できるように今後も図書館職員の業務改善は継続課題である。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
令和7年度も私立短期大学図書館協議会東北地区協議会理事館校業務のため、職員が学外へ赴く機会がある。その際の図書館利用について共通理解を行っていく。	

部署名	広報委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 柴田学園大学短期大学部のホームページ更新 2. 柴田学園大学短期大学部の SNS に送られてきたダイレクトメッセージ対応 3. SNS の内容をシリーズ化
目 標	1. 更新する内容に手落ちが発生しないようにし、手順を滞りなく進める。 2. 高校生や入学等に関係があるメッセージには返信する。 3. SNS を中学生・高校生に継続して見てもらい、学校の様子を知ってもらう。
取組内容	1. 依頼から掲載までの通常の手順と担当者を確認した。 ①掲載・更新してほしい内容が発生したら、希望者が記事や写真を作る。 ②①が学内の広報戦略室担当者に依頼する。短大：米塚先生 ③担当者が内容を確認して、本部佐々木さんへメールで原稿を入稿する。 ④佐々木さんから業者へ連絡して掲載・更新される。 ⑤「トピックス」更新について、掲載内容別の担当部署を確認した。 2. 入学等に関係がある相手からの送信であれば対応することとし、送られてきた内容を広報委員会の Teams に上げて検討し、内容によって学事課、生活科、保育科で文章等を作成し、返信する。 3. SNS にお知らせ等、時期に合わせた内容をシリーズにして静止画や動画を制作・配信する。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 各ページの担当部署を決め、古い文章や画像を新しい内容に更新した。更新依頼から掲載されるまでの手順と担当者を決めたことで、順調に工程が進んだ。 2. 問題なく対応できた。 3. 学事課の方々が「エリーちゃん」「しばたん」等のキャラを設定し、人形劇を展開した。学内の様子やお知らせ等を、楽しく分かりやすく伝えることができた。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 今年度の取り組みを継続し、不具合が発生した時に対応方法を検討する。また、ホームページに掲載する画像を前期から撮りためておくことを予定している。 2. 今年度の取り組みを継続し、不具合が発生した時に対応方法を検討する。 3. 今年度の取り組みを継続し、不具合が発生した時に対応方法を検討する。また、SNS への投稿回数が減少しているため、各部署で 1 ヶ月に 2 回程度の投稿を目指すことを予定している。	

部署名	FD 委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 授業後の学習アンケート実施。 2. 年度末の授業改善アンケート実施。
目 標	1. 科目履修者からの学習アンケート回収率を高める。 2. 学生からの学習アンケートをもとに授業改善につなげ、より良い授業を展開していけよう、教員へ周知する
取組内容	1. 7.5 回、15 回の授業形式があり、最終日に foam で回答を依頼している。 FD 委員会からはビバエンゲイジで当該科目履修学生へ連絡し、担当教員からも学習アンケートへ回答するよう二重に呼びかけ、アンケートに回答する時間を授業時間内に取りよう呼びかけをしている。 2. アンケートの集計結果については、期間中のすべての試験が終了し、成績提出がされた後に、各教員へ配布している。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 学習アンケートへの回答を授業時間内で実施できれば、回答率は上がるが、授業後にアンケートを呼びかけてもなかなか回答率が上がらない現状があるため、回答率を上げるための対策が必要である。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 同科目を複数の教員で担当している場合の、アンケートの結果内容が、担当教員に伝わらない場合があるため、教員毎にアンケートの集計を変える必要がある。	

部署名	紀要年報編集委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	① 年報の投稿数について。 ② 原稿の校正担当について。
目 標	① 年報の投稿数を増やす。 ② 原稿の校正担当者の負担を軽減する。
取組内容	① 年報について、印刷を業者に依頼する必要がなくなったため、投稿申込締切を原稿締切と同じ、2月末とした。 ② 年報の原稿の校正をおこなう人数を2人にし、校正担当者の負担を軽減した。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
① 2024年度は年報に計4本の投稿がなされた。 ② 2024年度は計4本の投稿だったため、2名体制で校正をおこなった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
① 2024年度に開講された公開講座の数はもっと多かったので、年報に公開講座報告等を投稿するよう、積極的に呼び掛けていく。 ② 次年度以降、紀要年報への投稿数が増えた場合、1人につき、原稿2本程度の校正を目安に、校正担当者を増員する。	

部署名	研究倫理委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	研究実施後の研究倫理申請の対応
目 標	研究倫理申請は、原則として研究の実施前に行わなければならないが、研究実施後に研究倫理申請書が提出されたケースがあった。 倫理的に問題のある研究は実施させてはならないが、申請者が取得したデータが無駄にする(学会発表や論文では使用できなくする)ことも躊躇されたため、今後のために、研究倫理申請のあり方を整備する必要がある。
取組内容	研究実施後の研究倫理申請は、受付を拒否する大学等もあるが、今回提出された研究倫理申請書の内容を読んだところ、事後申請している点以外に、著しい問題は認められなかったため、研究実施後の研究倫理申請という理由では受付を拒否しない(倫理審査は行う)ことにした。 ただし、審査はする一方で、審査の結果、倫理的に問題のある研究と判断された場合は、取得したデータの全てを、学会発表や論文で使用できるとは限らないということを申請者に伝えた。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
研究倫理申請の結果、倫理的に問題のある研究とは判断されなかったため、取得したデータは、学会発表や論文で、制限なく使用できることとなったが、研究実施後に研究倫理申請をした場合には、取得したデータの全てを学会発表や論文では使用できなくなるリスクがあることを申請の時点で、伝える必要がある。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
研究実施後の研究倫理申請は、想定していなかったケースであったため、対応に迷ったが、取得したデータの全てを学会発表や論文では使用できなくなるリスクがあることは、今後のために、本学の教員に広く周知する必要があると考えられた。	

部署名	ハラスメント対策委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. ハラスメント対策委員会の周知 2. ハラスメント防止及び対策ガイドラインの作成
目 標	1. 相談窓口と担当者を周知し、委員会の存在を理解してもらう。 2. ガイドラインに則り対応できるようにする。
取組内容	1. ハラスメント相談窓口の利用を促進するため、学生にはガイダンスを通じて、教職員には教授会において周知・案内を行う。 2. 必要に応じ、委員会の規則に基づいて改善・解決に向けた提案を行う。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 両科1年へガイダンスで、教職員には教授会で委員会のアナウンスを実施した。 2. ①学生用・教職員用のガイドラインを作成、配布した。 ②相談者は0人であった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 引き続き相談しやすいような体制を整えていく。 2. 問題事項が分かりやすいようにガイダンスで詳しく伝える。	

部署名	情報システム委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. Microsoft365 のアカウントを整理 2. 教職員用のネットワークの不具合対応 3. SNS の内容をシリーズ化
目 標	1. Microsoft365 のアカウント数について限りがあるため、今後の使い方を検討し、不必要なアカウントを整理する。 2. ネットワークが繋がりにくい状況になった場合、委員が対応する。 3. コンピュータ実習室のパソコンを入れ替える。
取組内容	1. 新しく着任された教職員の方々のアカウント追加し、退職された教職員の方々のアカウントについて削除した。また、卒業生のアカウントについて過去 5 年間分は残し、それ以前のアカウントは削除した。 2. 担当者から作業内容を教えていただき、委員全員で共有した。その後、8 月下旬にビジネスサービスが共有 NAS を新しい機器にし、ネットワークの設定を変更することで、不具合を解消した。 3. 入れ替える際のパソコンのスペック等について検討し、次のように要望した。 ①セキュリティ面を考えデスクトップ型が良い②医療事務の授業でアプリのセットアップ等があるため DVD ドライブがある方が良い。そして、10 月上旬にビジネスサービスの協力により、コンピュータ実習室の古いパソコン等を撤退し、新しいパソコン 20 台と、モニター 2 台を設置・設定した。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 問題なく対応できた。 2. 新しい共有 NAS の機器がアーカイブファイル(?)を作成する等、予想外のことが発生したが、問題なく利用でき、ネットワーク接続も順調である。 3. 教卓のパソコンとモニターが無線で接続されているため、同期が取れずにエラーが発生することがあったが、再起動し直すことで対応した。現在のところ、問題なく利用できている。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 今年度の取り組みを継続し、不具合が発生した時に対応方法を検討する。 2. 今年度の取り組みを継続し、不具合が発生した時に対応方法を検討する。 3. 今年度の取り組みを継続し、不具合が発生した時に対応方法を検討する。	

部署名	S D委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	S D研修会の複数回実施
目 標	教職員の多様なスキルアップを推進する。
取組内容	[令和7年2月13日] 大和証券から講師（佐野氏）を招き「金融教育」に関わる国の政策等の研修会を行った。 [令和7年2月26日] コンサルの講師（田岡氏）を招き「学生募集」に係る研修会を行った。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
S D研修会を2回実施し、教職員の知識の向上や情報共有が図られた。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
多様な観点からの研修会を継続して実施する。	

部署名	栄養士課程委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 事前・事後指導の充実 2. 栄養士実習研究発表会の実施
目 標	1. 実習にあたっての準備と実習内容の整理をする。 2. 自ら実践したいと考え、行動する。
取組内容	1. 実習最終日に提出する研究テーマのまとめに備え、関連内容を整理する自主学習を進める。 2. 発表会に向けてグループワークを取り入れ、進行の中間地点で改善点を確認する。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 提出レポートの作成および提出は達成できた。 2. 意見交換をすることにより、改善点が明確になり発表内容も精査につながった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 事前にひな型を作成させて実習に臨ませることで、レポート提出が円滑に行われるように検討する。実習先からの意見や要望に対し、レポート提出の対応をする。 2. 対象者の身体機能や栄養状態に応じた給食の特徴を学習し、実習に臨むための基礎知識の充実を図る。	

部署名	医療マネジメント課程委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 医療管理秘書士認定試験について、過去問の答練など試験対策に特化した集中授業。 2. 医事コンピュータ技能検定試験の領域Ⅱ「コンピュータ関連知識」を強化するための対策授業。
目 標	1. 医療管理秘書士認定試験の合格率100% 2. 医事コンピュータ技能検定試験3級の合格率100%
取組内容	1. 医療管理秘書士認定試験について、過去問の答練など試験対策に特化した集中授業を実施した。 2. 医事コンピュータ技能検定試験の領域Ⅱ「コンピュータ関連知識」を強化するための対策授業を実施した。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 医療管理秘書士認定試験の合格率100%という当初の目標を達成した。 2. 医事コンピュータ技能検定試験3級については、受験者数12名に対し、合格者数8名で、合格率は66.7%であった。ただし、領域Ⅱ「コンピュータ関連知識」に関しては、受験者全員が合格していた。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 医療管理秘書士認定試験の合格率は100%だったので、次年度も、今年度と同様、過去問の答練など試験対策に特化した集中授業を継続する。 2. 医事コンピュータ技能検定試験3級については、合格率100%を達成できなかったため、次年度は合格率100%を目指す。	

部署名	ビジネスマネジメント課程委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	ブランドマネージャー 3 級の資格取得を可能とする
目 標	ビジネスに従事する者にとって、ブランドに関する知識は重要な意味を持つことを踏まえ、主にビジネスマネジメント課程に在籍する学生を対象に、ブランドマネージャー 3 級の資格を取得できるようにしたいと考えた。 現状、ビジネスマネジメント課程では 6 つの資格を取得することができるが、ブランドマネージャーは、これらの資格とは範囲の異なる知識が必要のため、資格取得のためには、授業で学ぶ内容以外に、ブランドに関する知識を追加で学習する必要がある。
取組内容	小磯先生が、ビジネスマネジメント課程の授業を多数担当しているため、ブランドマネージャー認定協会との窓口を担当して頂くことになった。 本資格試験の受験に必要な条件はないため、誰でも(保育科の学生でも)受験することが可能だが、試験の内容から、ビジネスに関連する知識はがない者は合格しにくいと思われた。以上を踏まえ、受験対策のために、小磯先生が事前に特別講義を行った。
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
受験した学生は 2 名で、ビジネスマネジメント課程(1 年生)に在籍する学生(9 名)の一部(約 2 割)であったが、受験した 2 名はいずれも合格した。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
今年度、協会との窓口の他、特別講義を担当された小磯先生は、次年度で定年退職の予定のため、次年度以降の窓口担当者は未定である。窓口は他の教員でも担当することが可能である一方、特別講義は、ビジネスの知識を有する教員でない限り、担当することは困難である。 本資格の受験は任意で、希望者のみが受験したため、受験者数は 2 名に止まった。本資格を必修とする予定はないが、今後、受験者数を増加させるためには、特にビジネスマネジメント課程の学生に、ビジネスにおけるブランドの意義を理解させる必要があると考えられた。	

部署名	保育士課程委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 「学外実習について」の見直しと実習園や学生への周知や機能の定着 2. 科目等履修生、留年者の実習の受け入れについて 3. 実践的な学びの検討 4. 実習録の作成について
目 標	1. 新しい規定の運用を、実習園や学生に周知及び定着させる。 2. 科目等履修生、留年者の実習の受け入れについて基準を作成する。 3. 保育実践を行っている授業において、5 領域・10 の姿の理解について実験的に実施する。 4. 実習録の内容を検討し、低コストで作成する。
取組内容	1. 実習園への周知と学生には「学外実習について」の説明を実施 2. 科目等履修生、留年者のオリエンテーションや試験の実施 3. 実践的な学びの実施 4. 実習録の作成について、業者との打ち合わせ
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 学生指導においては、保育実習指導(1)や(2)において説明と各授業において学生指導にあたる。しかし、学力の判断基準により、実習ができなかった学生が数名いた。科長面談や担任からの面接等で指導はしているが、委員会としての改善策が必要だと感じた。 2. 科目等履修生や留年者の実習の受け入れについて、学外実習の規定を作成し、学務委員会において審議を図った。それにより、オリエンテーションの実施やピアノ実技試験、指導案作成及び模擬保育の試験を実施することとした。 3. 5 領域や 10 の姿の理解を深めるため、「教職実践演習(幼)・人間関係の指導法」の授業において、指導案作成や模擬保育の実施等で実験的に実施したところ、学生理解が深まった。 4. 委託するにあたり、見積もりの交渉と実習録の内容について検討した。実習録の費用は学生負担とし、学年毎の実習分のみ購入とした。特にトラブル等はなかった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 学力の判断基準は適正であるため、実習延期となった学生への指導を検討。 3. 実習に関わる学びとなるため、「5 領域に関する授業」や保育実習指導(1)・(2)においても授業で学びを深められるようにしていきたい。	

部署名	幼稚園教諭課程委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	1. 「学外実習について」見直しと実習園や学生への周知や機能の定着 2. 科目等履修生、留年者の実習の受け入れについて 3. 実践的な学びの検討 4. 実習録の作成について
目 標	1. 新しい規定の運用を、実習園や学生に周知及び定着させる。 2. 科目等履修生、留年者の実習の受け入れについて基準を作成する。 3. 保育実践を行っている授業において、5領域・10の姿の理解について実験的に実施する。 4. 実習録の内容を検討し、低コストで作成する。
取組内容	1. 実習園への周知と学生には「学外実習について」の説明を実施 2. 科目等履修生、留年者のオリエンテーションや試験の実施 3. 実践的な学びの実施 4. 実習録の作成について、業者との打ち合わせ
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
1. 学生指導においては「保育実習指導(1)」「保育実習指導(2)」において説明と各授業において学生指導にあたる。しかし、学力の判断基準により、実習ができなかった学生が数名いた。科長面談や担任からの面接等で指導はしているが、委員会としての改善が必要だと感じた。 2. 科目等履修生や留年者の実習の受け入れについて、学外実習の規定を作成し、学務委員会において審議を図った。それにより、オリエンテーションの実施やピアノ実技試験、指導案作成及び模擬保育の試験を実施することとした。 3. 5領域や幼児期の終わりまでに育みたい10の姿の理解を深めるため「教職実践演習(幼)」 「人間関係の指導法」の授業において、指導案作成や模擬保育の実施等で実験的に実施したところ、学生理解が深まった。 4. 委託するにあたり、見積もりの交渉と実習録の内容について検討した。実習録の費用は学生負とし、学年ごとの実習分のみ購入とした。特にトラブル等はなかった。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
1. 学力の判断基準は適正であるため、実習延期となった学生への指導を検討。 3. 実習に関わる学びとなるため「5領域に関する授業」や「保育実習指導(1)」「保育実習指導(2)」においても、授業で学びを深められるようにしていきたい。	

部署名	中長期経営改善委員会
1. 今年度の重点事項	
項目 (箇条書き)	・令和5年度事業報告書及び令和6年度事業計画書作成と実行 ・令和6年度経営改善計画 令和4年度～令和6年度(5カ年)の作成 ・令和7年度からの中期計画の項目についての検討
目 標	・事業報告書は実施された事業・学生や教員の活動の評価と可視化となるため、写真等でよく伝わるような内容にする。 ・事業計画書は、現在の事業・活動の見直しに留まらず、新たな取組を行える計画とする。 ・令和7年中期計画の完成
取組内容	・令和5年度事業報告書の完成 ・令和6年度事業計画書の完成と実施 ・令和7年度中期計画の項目の検討をして完成
2. 自己点検・評価(取組状況、及び、目標の達成度)	
・令和5年度事業報告書は、生活科・保育科ともに、学生と取り組んだ内容を効果的な写真使用し可視化できた内容となった。 ・令和6年度事業計画書について、少子化の中でも入学したくなるような講義や取組みについて検討した。 ・令和7年中期計画は、担当教職員で分担し、運営委員会にかけて精査した。	
3. 次年度の取り組み予定(今年度の自己点検・評価を踏まえた内容)	
・次年度以降もの事業報告書を意識して、事業や教育活動の場面で写真を心がけてとり、記録を残していくことを行うこととする。 ・令和5年の反省をもとに令和6年度に改善されたことについては継続していく。 ・学生がより力をつけられる取組内容や、教員の講義の質向上、多様な学生への対応についても引き続き検討をしていく。	